

1 社会・治安情勢

当国では、2017年11月に実施された大統領選後、汚職、電気料金や公共交通機関の運賃の値上げ等に反対するデモ、道路封鎖が各地で活発化し、同デモや道路封鎖参加者の一部が、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。

選挙結果関連のデモ等は沈静化しているものの、7月には、運輸関連労働組合（運輸セクター）は、高騰していた車両登録料の廃止を求めて陸上運送法の改正を要求していたところ、交通インフラ維持税と呼ばれる税金の値上げに対しても不満が募らせ、加えて、政府が、運輸セクター側の要求していた交通料金の値上げ及びガソリン代の減税を拒否したため、首都テグシガルパ市及び商都サンペドロスーラ市を中心に、タクシー運転手、バス運転手等による大規模のストライキ及び道路封鎖に発展した。8月初めには、両者ともに和解した旨の発表が出されているものの、一部では反対意見も根強く、今後も同種の事案が部分的に発生することは否定できない。

引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪、凶悪犯罪の傾向

(1) ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると、上半期（1月から6月まで）の殺人事件発生件数は、1,832件（※未確定値、前年同期比-10.5%）と引き続き減少傾向にある。特にコルテス県、フランシスコモラサン県が大幅に減少した。一方、オランチョ県やコマヤグア県（特にコマヤグア市）が増加している。

また、死因不明の死者数が317件（前年同期比+19.2%）と大幅に増加している。

(2) 上半期に発生した殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり、また、

約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。

- (3) みかじめ料の支払いを拒否したことによる、犯罪組織からの報復と考えられるバス、タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人、銃撃、放火事件も引き続き発生しており、「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず、安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (4) 銃器を使用した強盗事件も、引き続き首都圏全般で発生しており、徒歩での移動も極力避け、車両での移動を勧めている。
- (5) コカイン、マリファナが大量押収されるケースは続いており、東部密林地帯等で薬物精製所、密輸用滑走路も発見されていることから、当国が、他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていないと考えられる。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 7月1日深夜、首都の所在するフラシスコモラサン県内において、給料を受け取った後飲みに出掛けた男性（51歳）が、路上で殺害された。

イ 7月5日昼間、テグシガルパ市内において、客待ちをしていたタクシー運転手が、近づいてきた男性に突然頭部を撃たれ重体。

ウ 7月6日正午、テグシガルパ市内において、客待ちをしていたタクシー運転手が、何者かに銃で殺害された。

エ 7月10日夜間、テグシガルパ市内のバスの停留所で、銃撃戦が発生、4人が死亡した。

- オ 7月12日夕方、テグシガルパ市内において、銃撃戦が発生、男性1名（17歳）が死亡し、3人が負傷した。
- カ 7月13日昼間、テグシガルパ市内において、タクシー運転手が強盗犯人に発砲され頭部を負傷した。
- キ 7月25日（時間帯不明）、テグシガルパ市内において、警官の格好をした男性複数人が、民家に侵入し同民家に居住していた夫婦（32歳、41歳）を銃で殺害した。
- ク 8月2日深夜、北部コルテス県サンペドロスーラ市において、男性が乗車していたバイクの不具合で降車していたところ、酒に酔った者らが銃を乱射しながら車を走行させており、その流れ弾に当たり死亡した。
- ケ 8月2日昼間、テグシガルパ市内において、客を装い乗車してきた2人組の強盗犯に売上金を強取されそうになったところ、タクシー運転手が抵抗したことから、腹部を撃たれ重体。
- コ 8月20日（時間帯不明）、テグシガルパ市内において、大学病院の駐車場から高級車を窃取しようとしていた犯人グループに、警備員男性が近づいていたところ、銃で殺害された。
- サ 8月20日（時間帯不明）、コマヤグア県内において、長距離バス車内で男性（23歳）が乗客から金品を強取していたところ、他の乗客に射殺された。
- シ 8月24日（時間帯不明）、コルテス県チョロマ市において、薬局に強盗に入ろうとした男らと警備員の間で銃撃戦が発生、付近にいた女性（43歳）が巻き込まれ死亡した。
- セ 8月25日（時間帯不明）、北部コルテス県サンペドロスーラ市所在のホテル（Hotel Sula）内で銃撃戦が発生し、男性2名が負傷した。
- ソ 8月29日夜間、首都の所在するフランシスコモラサン県内において、強盗犯人に抵抗し、銃で撃たれ死亡した。

タ 9月7日夕方、テグシガルパ市内を走行中のバス車内で強盗事件が発生、強盗から逃れるためにバスから飛び降りた女性が歩道に頭を打ちつけ死亡した。

チ 9月8日深夜、テグシガルパ市内において、飲み屋に強盗グループが押し入り、金品を強取していたところ、客の1人が銃で応戦するも逆に撃たれて死亡した。さらに、従業員男性1名も被弾し死亡。

ツ 9月26日夜間、テグシガルパ市内において、警察とギャングの間で銃撃戦が発生、付近にいたモトタクシー運転手の男性（24歳）が被弾し死亡した。

テ 9月28日（時間帯不明）、テグシガルパ市内を走行中のバス車内で強盗事件が発生、犯人と乗客の1人の中で銃撃戦となり、乗客1名が重傷。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

(1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。

(2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。

(3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。